

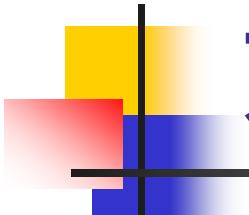


# 若者参加 選挙ではじまる まちづくり

明治大学 牛山ゼミナール

菅原 文仁 角野 良子

堀内 健 若尾 侑加

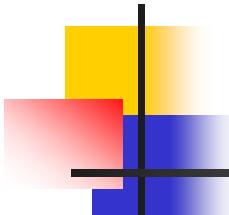


# 京田辺市の第一印象

---

- 同志社大学のまち
- 官・学の協働が強く行われているまち

今後、まちの頭脳部分である同志社大学との連携をより強めたまちづくりが大切なのではないだろうか。



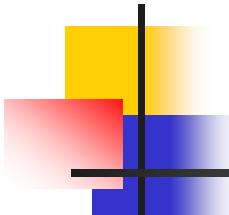
# 今後のまちづくり

- 夕張市のように財政破綻をしないために…
- 「ソフト・ハード面だけではないアイディアが必要になってきた」今…

住民主体のまちづくりが求められている。

住民が地域に目を向けること。

つまり住民意識を高め、住民参加・住民自治を行うことが求められている。

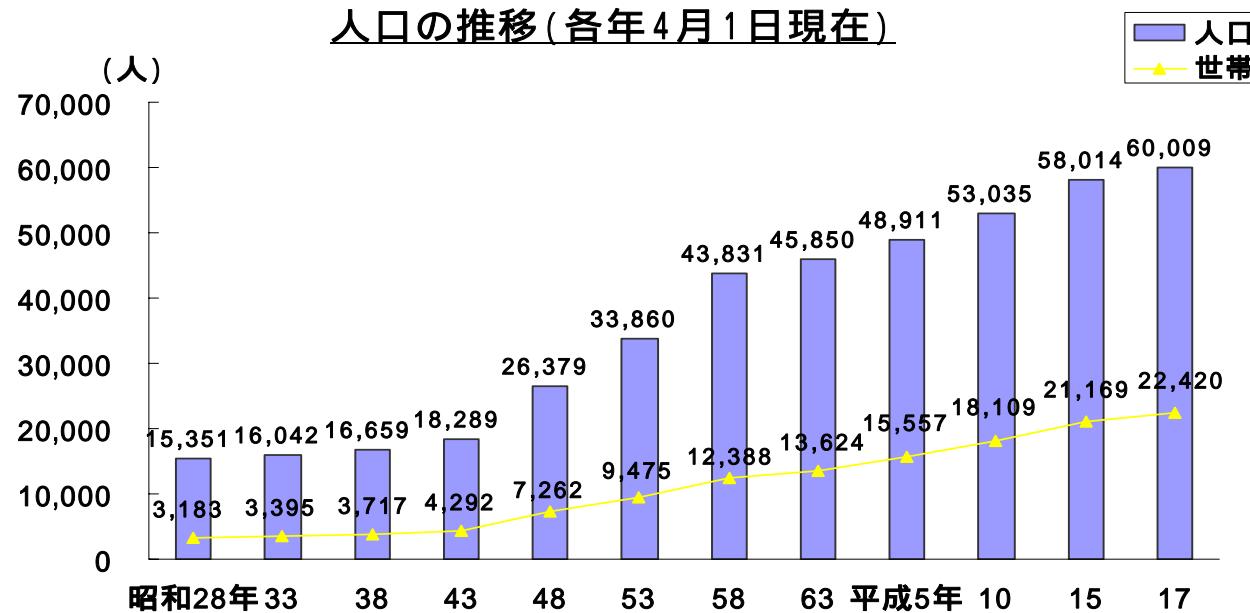


# 「選挙」に着目した理由

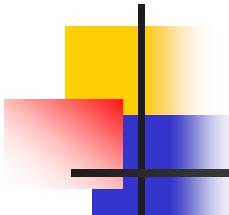
---

- 住民参加・住民自治の基本は選挙への参加である。
- 住民意識が高いか低いかと言うことを測る1つの指標となる「投票率」に着目。

# 人口増加の推移



出典: 平成17年度版『京田辺市統計書』



# 人口増加と発生する問題

---

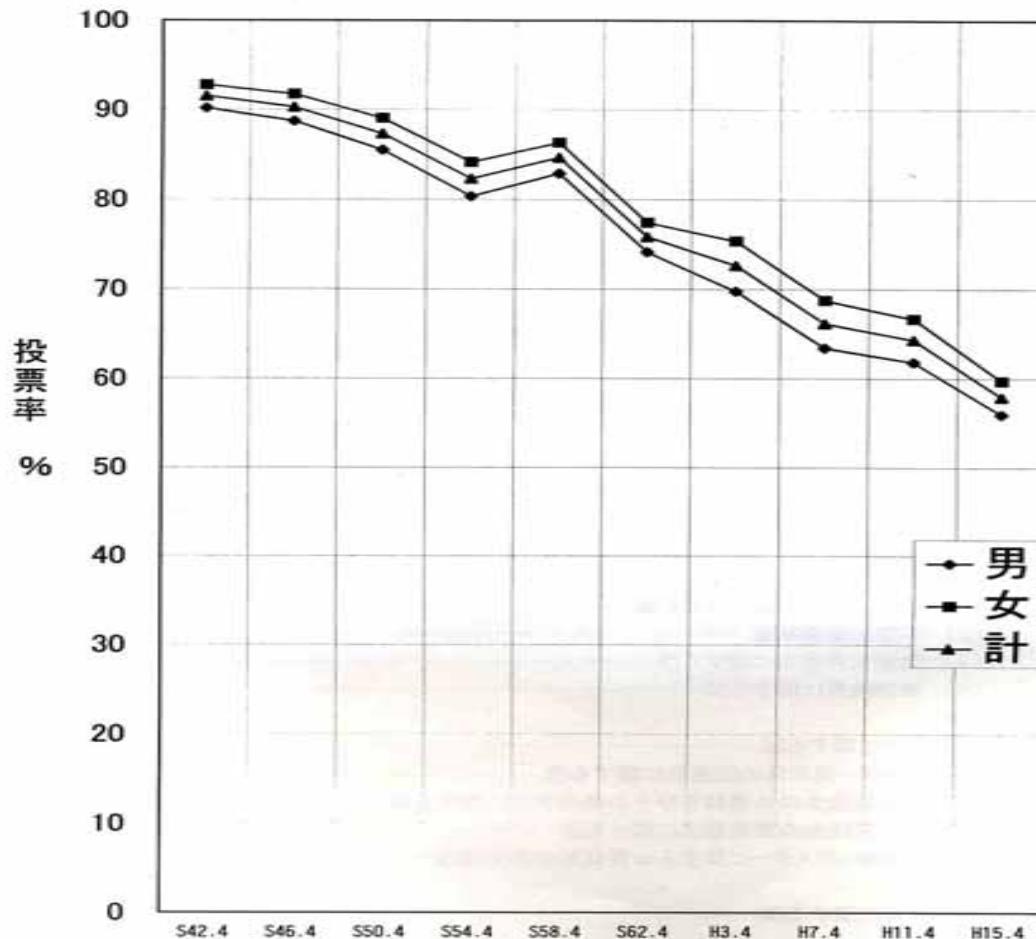
- 人口は年々増加
- 京田辺市は2020年までに人口が80000人に増加すると見込んでいる。

人口が増加することによってさまざまな問題が出現する。

その1つの問題として投票率の低下が懸念される。

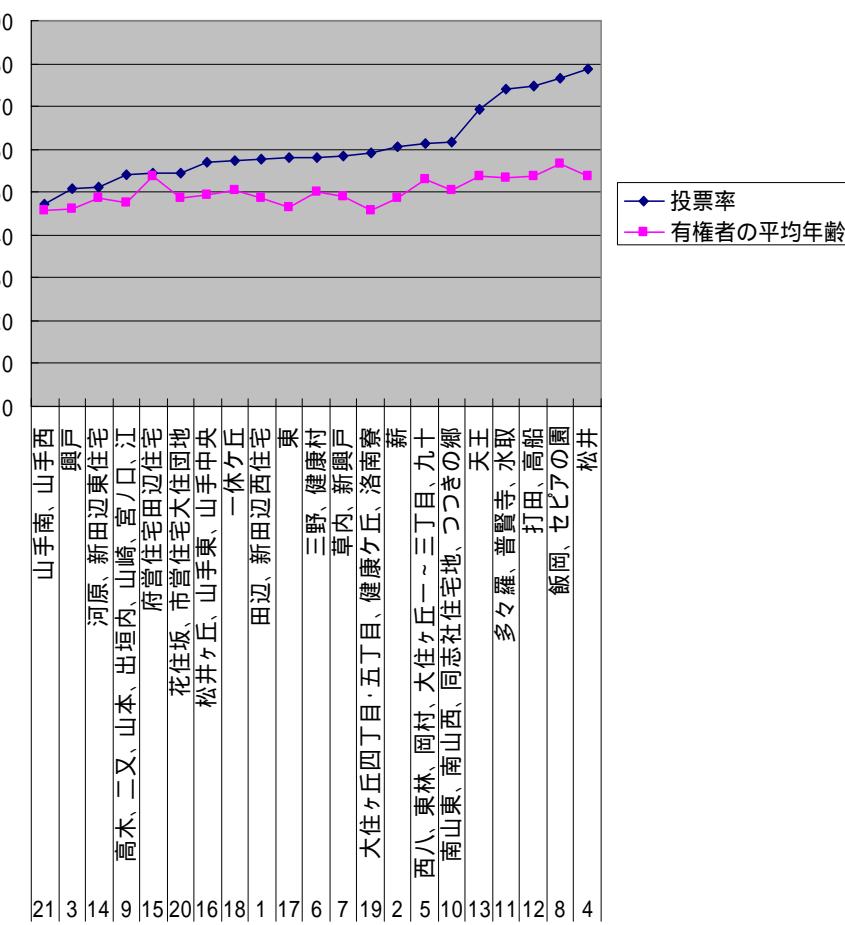
# 京田辺市の実際の投票率

市議会議員一般選挙投票率推移



出典  
京田辺市選挙管理委員会  
『選挙の記録』 平成15年

# 有権者の平均年齢と投票率



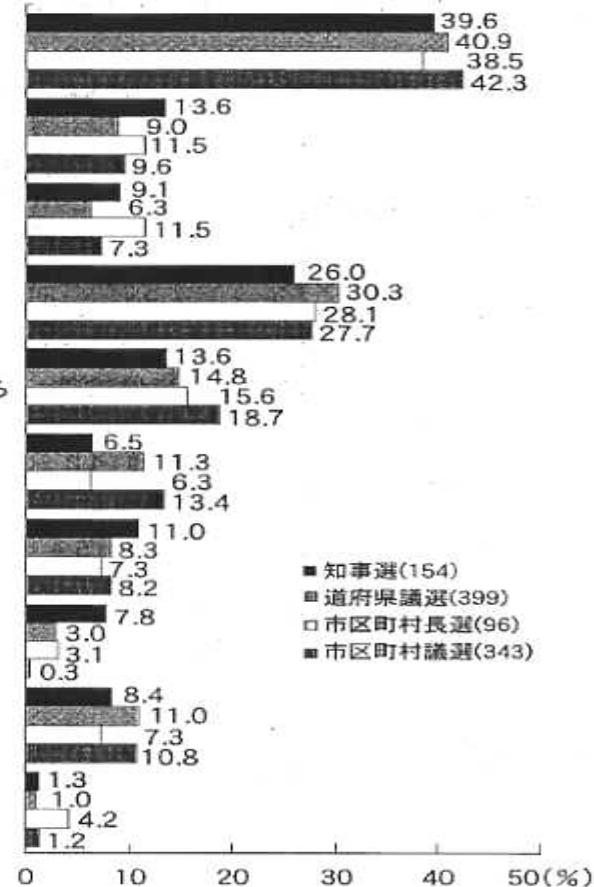
- 有権者の平均年齢が高い地域  
<飯岡・セピアの園地区>  
有権者の平均年齢: 56.75歳  
投票率: 76.44%
- 有権者の平均年齢が低い地域  
<大住ヶ丘4・5丁目、健康ヶ丘、洛南寮>  
有権者の平均年齢: 45.58歳  
投票率: 59.15%

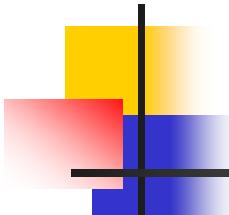
出典

京田辺市選挙管理委員会「選挙の記録」 平成15年  
平成19年1月1日付け「地区別・世代別年齢分布票」  
より作成

# なぜ投票に行かないのか？

- 用があったから
- 病気だったから
- 面倒だから
- 選挙にあまり関心がなかったから
- 政策や候補者…がよくわからなかったから
- 適当な候補者がいなかったから
- 私一人が投票しなくても同じだから
- …無風選挙であったから
- 選挙によって政治はよくならない
- 今住んでいる所には選挙権がないから

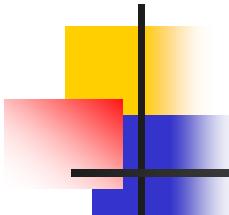




# 「選挙教育プログラムの確立」政策

- 投票率が低下している若者(20代)
- 次世代の京田辺市を担う子供(小学生・中学生)

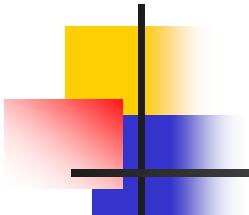
意識改革・啓発のための教育プログラム  
の確立が求められる。



# 行政・同志社大学との協働で行う

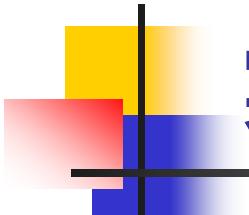
- 行政・同志社大学との連携ができている。  
(2005年1月 包括協定締結)  
「京田辺市らしさ」
- 総合学習の時間を有効活用。

実際に、同志社大学の学生が小・中学校  
に赴き選挙を教育する立場になる。



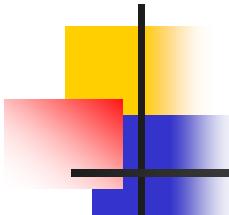
# この政策のメリット

- 次世代を担う子供たちの意識改革が可能。
- 教える立場になることによって、同志社大学の学生の政治に対する意識も改革することが可能。
- 子供の意識が変わることによって、その親たちにも好影響を及ぼすことが可能。  
投票率の上昇、政治関心度を高めることが可能となる。



## 実際に使う教育プログラムの内容例

- もし、私たちが同志社大学の学生だったら何が出来るだろう…？
  - ・ 選挙の意義
  - ・ 選挙の仕組み
  - ・ 実際に体験させる  
(ロールプレーイング)
- 一票の重さを知らせる



# ロールプレイングの具体例

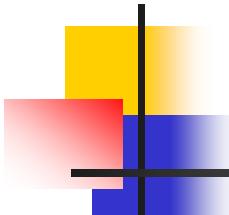
京田辺小学校 4年3組 学級委員長選挙

<候補者>

同志社君：おやつ時間導入

日大さん：バレンタインの男女平等化

明治君：花粉症対策として春は窓を開けない



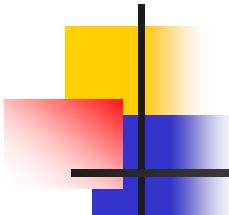
# 選挙を行った結果、学べる事

例えば、同志社君が当選したら…

今まで無かったおやつ時間が導入されることとなり3時におやつが食べれるようになった！

以上のように、自分が持つ一票を投票することにより自分が所属するクラスの在り方がガラリと変化することを体験できる。

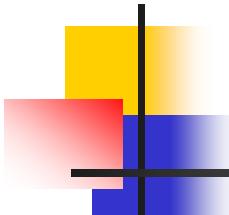
票の重さ、選挙の意味を学び「選挙」と言うものを子供の頃から身近に感じることができ、政治意識を高めることが可能となる。



# 実際に政策を実現させるために

- 行政と同志社大学の連携をより強める。  
この政策実施に見合った協働システムの構築が必要。
- 住民主体で自らのまちの若者、次世代の京田辺市を担う子供たちの政治意識を向上させるために必要な教育プログラムを考案することが必要。

しかし、この政策を実施するにあたりコスト・時間をかけることなく政策実施に着手することが可能であり、実現可能性が高いと言えるのではないだろうか。



## 最後に…

3日間という短い間でしたが、このフォーラムに参加し、京田辺市を訪れることが出来たのも何かの縁だと感じました。東京にはない良さをたくさん兼ね備えたこのまちをより良いまちにするために、私たちが提案したこの政策は有効な手段になると信じています。

ありがとうございました。

明治大学 牛山ゼミ チーム一同